



桂 雅彦
Masahiko Katsura

このたび、1989年6月末にイタリアより帰国し仙台にてデザイン事務所を開設しました。イタリアへは1986年の10月にイタリア政府給費留学生としてミラノ工科大学建築学部に籍を置き、約2年8ヶ月の滞在となりました。留学と言いましても、ただ学校に行って授業を聞くというのではなくイタリア人との交流により、よりよくイタリア社会、文化、哲学などを深く学ぶことができたと思います。また、日本人としてあるいはデザイナーとしての自分をぎりぎりのところまで追い詰め再解釈する機会として、とても良いステージになりました。特にイタリア人の人生を楽しむ姿勢、そして本来の人間の豊かさに共感を覚え、今まで自分なりにいっていた人生哲学を再確認したような気がします。デザイナーたるや気持ちだけでも常に豊かにしておきたいものであるし、快感を人に与えそして感じる事ができる素直な感性を持続させなければならないと思います。そのためには環境が大切になり、ヨーロッパでは合理的なサイズメイキングではなく生理的な考え方で空間を設定したり都市のディテールを設計しています。そして、あ

まりの商業主義でない高度な文化的レベルからの視点も忘れないので本来の都市たる所以の環境がそなわってくるのです。私が仙台に居住しているのも、人とエリアのバランスがとれ本来の都市機能と人間にとって最も重要な自然の配合を忘れていない街であるからです。

さて、私の仕事ですが、渡伊する前にかかわっていたのが「カネタチ吉の新業態実験ブランド「ジャパン」」で、1983年にプロジェクトチームができ、チーフデザイナーとして参加しました。コンセプトは、従来の伝統技術、素材を西欧化した現代社会に浸透させるべくすべての生活道具を1つのテイストに凝縮させるということで展開しました。下の写真は南部鉄シリーズのもので、イタリアでは、家具、照明器具、キッチン、サニタリーなどのデザインをてがけてきました。現在はプロダクトを中心に新商品企画、デザイン、事業計画などを行い、大阪、京都、名古屋、東京を行ったり来たりしています。また、イタリアとの仕事も進めるつもりですので、いずれはミラノと仙台を半々のバランスで活動できればと思っています。

